透析医会5周年に寄せて

菅野寛也

静岡県の透析医会会長、菅原先生が亡くなって、後任が未決定の為か、廻り廻って私に原稿依頼が来たので、５周年の記念誌には、相応しくない文章かもしれないが、折角の機会なので敢えて一筆書かせて頂く事にした。

原稿依頼の項目は、１～４迄記載されていたが、先に、1.透析医会に対する期待と、2.医政と主張について、関連性を認めるので、一括して書いて見たい。

先日、ＮＨＫのテレビで「病院再建の内幕」との題で放映された番組があった。御覧になった方も居られると思うが、大変、心外な内幕であった。私立病院の赤字倒産の建て直しと言う様なテーマであったが、日本では、公的病院も軒並み赤字経営である。この本質には、全く触れていない。

国が、医療費抑制策を施行し続ける限り当然の結果なのだが、何と言っても、知的所有権、技術評価の低い国であり、赤字解消の為には、高額な医療機械等を導入して、検査料や、高額な点数の請求出来る医療をしなさい、とすすめていた。カウンターショック。除細動な点数が高い、とのアナウンスは、使用するsitnationの説明も無く、不謹慎そのものであり、医道倫理に触れる問題である。

医師の給料はカットし、ナースの給料を上げ、そして入院患者を増やせ、と全く「マス・プロ」政策を前面に押し出し、「医業産業の鑑」と礼讃していたが、更に後半にshockingな場面があった。文字通り、出入りの医療関連業者が投資していると説明があり、「某社」のトラックが画面に出て来た。

それに追い打ちをかけて、「切り札の透析」として、50台のコンソール、しかも各ベッドにビデオ、テレビ付きの場面が出て来た。そればかりか、患者名簿を手に入れ、職員が、家庭訪問をして、「最新の設備の完備したウチの病院へ来て下さい」と説得している所迄放映された。透析を「金の成る木」と捉えている。これは、完全に、透析医療に対する冒瀆である。

私のクリニックの階段の踊り場に、「スタンダード・キール」を一基保存している。勿論、透析膜も、回路も入手出来ないから、現在は使用していないが、ドライ・ケミカルで透析液を作り、「膜張り」をしていた苦労を忘れない為にも、又、新人に透析の原理を説明する際にも役に立つので、大切に、キープしている。あの時代の透析は、特に医師やスタッフも、そして患者も、ヒタムキに一生懸命に透析にとり組んでいた。文字通り、「手造り」でやって来た訳である。

あの頃から見ると、技術的にも、或は学術的にも、又、機器の面でも、格段の進歩を遂げているが、反面、現在は、医療側にも、患者側にも、easy going　な取り組み方をしている感があるのも、否めない。確かに、「良い器械」で、「良いスタッフ」で、然も地域格差も解消されつつあり、良い治療が出来るのは、大変、良い事であるが、本質は「大変な難病治療」をしている訳である。

各透析機関も、以前に比し、点数の激減した分を「努力」と「合理化」で、必死の思いで、経営危機と戦っているのだから、この様な実状を、医政に訴える事が、大事であると信ずる。

昇り傾向の時は、何をやっても出来るが、下り坂での、踏ん張りは、本当に大変である。

1.3.が長くなってしまったが、2.の当地区の腎不全対策は、漸く、県内の「腎不全研究会」が発足し、既に活動している「静岡県腎バンク」共々、発展を期待している。

静岡県透析医会会長代理・菅野医院分院

然し、地域的な問題では、「東海大地震」が予告されている県であり、その為、私も「災害時透析」の委員会のメンバーに拝命されている訳だが、これが、仲々大変である。

私も、災害時救急透析医療委員会の一員として災害対策のパンフレットや、I.D. カードを作製し、対処しつつあるのだが、災害は、予測も困難であるし、発生してから慌てても遅過ぎる。又、完全に100%の対策は難かしいであろうが、兎に角、「備えよ、常に!!」の心構えで対処すべきであり、又、関係医療機関等の、communication が大切である。

最初に述べた様に、臨時の会長代行としての記述で、県の代表としては御批判があるかも知れないが、意とする所を御理解願いたい。